九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

[015]九州大学低温センターだより表紙奥付等

https://hdl.handle.net/2324/4763145

出版情報：九州大学低温センターだより. 15, 2021-03. Low Temperature Center, Kyushu University
バージョン：
権利関係：

巻頭言

低温センター長　木村 崇

一年前は、ヘリウム危機のため、如何にして難局を乗り切るかを関係者で検討していた状況でしたが、今年度は、最初から現在に至るまで、新型コロナウイルスへの対策に振り回された年でした。そのような異例の状況下においても、大きなトラブルが無く、安定した寒剤供給ができ、無事に低温センターだよりを刊行できますこと、改めて、関係の皆様方に厚く御礼申し上げます。

緊急事態宣言の発出に伴い、本学も在宅勤務が原則となり、寒剤供給も停止せざるを得ない状況となりましたが、一方で、装置固有の事情や実験材料の都合などで、寒剤を継続的に供給しないと甚大な被害をもたらす場合などが多くあることが分かり、特殊事情がある場合に限り、寒剤供給業務を継続することにしました。思いの外、期間中、寒剤供給の要望が数多くあり、その点では、本センターの存在意義を再認識することができました。ユーザーの皆様には、普段とは異なり、一定の制限下での供給となり、ご面倒をおかけしましたが、必要な方全員に配送することができたと考えております。ユーザーの皆様のご協力に感謝いたしますと共に、感染のリスクがありながら、期間中も寒剤配送を継続して頂けた配送業者の方と本センターの職員の尽力にも、心から敬意を表したいと思います。

少し手前味噌な話題で恐縮なのですが、本センターの職員は、人数は少ないのですが、向上心が溢れるメンバーが揃っており、常により良い運営を目指して、ユーザー視点を意識し、より最適な寒剤供給体制の検討、新制度の導入、他大学の低温センターとも定期的に交流して情報交換するなど、運営改善に向けた努力を日々続けております。寒剤に関する高圧ガス保安講習の受講に関しても、以前より、Eラーニングを導入していたため、今年度も滞りなく実施することができました。寒剤自動供給システムやヘリウム純度の遠隔管理なども独自開発しており、より業務を拡充させ、本学の先端研究を支える重要な役割を担えるよう、更なる努力を継続していきたいと考えております。

本センターも伊都キャンパスに拠点を移してから、１０年以上が経過し、ヘリウム液化機などの大規模設備の増強・更新が急務となっております。これらの導入に関しては、各部局との連携の強化が必須と考えております。今後ともご支援・ご協力いただけますようお願い申し上げます。